

大学生が、子どものいる家庭を訪れ、子育てを体験する兵庫県の取り組みが、10月から始まった。子育てや、仕事との両立に不安を持つ若者は多いといい、将来のイメージを持ってもらうのが狙い。体験は新聞やラジオ、インターネットなどを通じて発信する予定で、県子ども局は「子育てを身近に感じてほしい、若い世代に共有してもらえたら。少子化対策にもつなげたい」と話す。

(広畑千春)

大学生が子育て家庭訪問

県などの事業

「大学生と子育てママのマッチングによる子育て支援」事業。神戸新聞子育てクラブ「すきっぷ」(神戸市中央区)が受託し、来年2月にかけて、県内の大学の教育・保育系学科に通う男女15人前後が2人1組になり、子育て家庭を訪問する。

県内の20～49歳の男女を対象にした少子対策・子育て支援に関する意識調査では、34・3%が「育児がうまくできるか不安」と回答。核家族化・少子化の進行などで、若者が子育てに触れる機会が減っているとみられ、

ママの日常 ちよつと体験



佐藤さん宅で子どもたちと交流する大学生＝神戸市西区

メディアで感想発信へ「子ども苦手だけど、かわいい」

同局は「子育てへの心理的なハードルを少しでも低くできた」と期待を込める。

今月25日には、甲南大4年の西川友貴さん(21)と岡松佑実さん(21)が、神戸市西区の佐藤麻由美さん(40)方を訪れ、琉之介君(9)、里音ちゃん(6)、蒼空ちゃん(3)と交流した。最初はお互い戸惑いがちだったが、すぐにブロックや粘土と一緒に遊び始め、テーブルを囲んでおやつを食べ、麻由美さんに話を聞いた。

「育児は大変で、我慢することも多いけど、子どもがいるから経験できたことはそれ以上。今は満足している」と麻由美さん。「寂しさを強く感じるのは上の子。だからできるだけ立てるようにしている」など普段心掛けていることを語った。

別れ際、自転車で追いかけてくる琉之介君らの姿に「実は子どもは苦手で、結婚もしないと思っていたが、かわいかった」と岡松さん。スクールカウンセラーを目指す西川さんも「しかり方、褒め方が参考になった。将来のことは分からないけれど、3人きょうだいもいいなと思った」と笑顔を見せた。

11月13日には、体験した学生らが、神戸ハーバーランドで行われる「すきっぷフェスタ」で、ラジオ関西の公開生放送に出演し、感想などを語る。